

○提案内容

(1)実現したい都市のビジョン	
<p>・本市は東日本大震災により既存公共交通網に甚大な被害を受け、現在、JR大船渡線の本復旧として導入されたバス高速輸送システム(BRT)を基幹交通に位置づけている。BRTは1時間に1便程度の運行便数と等間隔運行を実現し一定の利便性を確保しているが、それ以外のバス・乗合タクシー等の交通手段の種類や便数が少なく、全体としての利便性が損なわれている。また、被災により高台での自宅再建が進んだことを背景として、デマンド型の予約型乗合タクシーの実証運行も行っているが、一部の地域や時間帯での運用にとどまっている。</p> <p>・市内中心部の交通ハブであるBRT陸前高田駅から「市内どこへでも行ける」交通網が確立され、BRTと既存バス路線を幹、乗合タクシー等を枝葉と位置付け、市内各地から枝葉→幹→枝葉と乗り継いで移動できるまちを目指す。</p> <p>・小規模のモビリティや共助による輸送から乗合バスまで、多様なモビリティサービスの導入を進めることにより、ニーズや需要に応じてさまざまな「おでかけのカタチ」が選べるまちを目指す。</p> <p>・高齢者や障がい者でも不便をきたさずに自力で、または公共交通で移動できる「ノーマライゼーションという言葉のいらないまち」を目指す。</p> <p>・自家用車以外で陸前高田市に來訪する観光客等が自由に市内を移動し観光することができるまちを目指す。</p>	
解決する課題のイメージ	課題の分類
<p>・人口が分散している郊外・山間地から中心市街地へ、あるいは住宅再建が進んだ中心部高台から中心市街地への移動の足の確立。</p> <p>・高齢化が急激に進行し、自宅から近隣のバス停までの移動にも困難をきたす住民が増加している「ラストワンマイル」の問題。</p> <p>・インバウンドの流入拡大による観光誘客や交流人口の増加及び市内各産業の活性化。</p>	<p>(ア)</p> <p>(ア)</p> <p>(オ)</p>

(3) 具体的に導入したい技術(既に想定しているものがある場合)

- ・特に「高低差のある」ラストワンマイル」への対応に有効性を発揮し、高齢者や障がい者にとって利便性の高い交通手段
- ・先端技術になじみのない高齢者等にも使いやすく、運行事業者等にも管理やメンテナンスが容易な事前予約システム及び地域内移動手段検索システム
- ・定時定路線の運行形態における自動運転の段階的導入

(4) 解決の方向性(イメージでも可)

- ・中山間地の自宅からBRT駅や路線バス停留所へ、事前予約した「枝葉」の交通で向かう⇒BRTや路線バスを使い商業・医療・観光等の拠点へ移動または拠点間を移動⇒事前予約した「枝葉」の交通で駅や停留所から自宅へ戻る というおでかけが日常となる。
- ・事前予約に際しては、乗り継ぎのための接続便やダイヤ、運賃などの情報が一括提供され、高齢者でも公共交通をかしこく使うことができる。
- ・域内観光地間または観光地と市街地の移動について、既存交通事業者とのバランスが保たれたライドシェアやカーシェアの活用や、「便利＋乗って楽しい」の魅力を追求した乗り物など、モビリティサービスの多様化が実現されている。

(5) その他

○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
岩手県陸前高田市 企画部まちづくり戦略室	主任主事 小野 勝彦	0192(54)2111 内343	senryaku@city.rikuzentakata.lg.jp